

資料

看護実践研究指導事業の趣旨

岐阜県立看護大学
看護研究センター

1. 本事業の目的

本事業は、県内看護職が大学の知的資源を利用して自己研鑽や日常の業務改善ができるようにすることを目指し、看護の実践研究にかかる研修事業として、平成 13 年度から取り組んでいます。

実施に際しては、単に知識伝達型の一方通行的な講義で行うのではなく、教員が現場に向いて県内の看護職の現状を把握することを基本とすること、看護職者やその実践の実態に即応した適切な指導・研修の方法を開発すること、現職看護職者自身の主体的問題解決を促進すること、などを重視しています。

また、大学としては、今後の看護学科や大学院看護学研究科の教育研究環境の一層の充実を図り、本学で育成した人材の県内施設への就業と定着しやすい環境づくりを目指して取り組んでいます。

2. 本事業の要件

岐阜県の看護職者について、実施している看護実践活動の実態と課題を大学教員として確認し、それらの看護職者が提供する看護実践の質の向上を図る上で有効であるとして教員が企画した研修であることを要件とします。

看護職者は、専門職であることから、自己の技術や実践方法の改善・充実について研究的取り組みを行なうのは必然です。そのため、大学としては、看護実践研究の実施を奨励することを手段とし、主体的専門職者育成を前提にして、県内看護職者への研修を企画します。ただし、特定施設や特定地域に限定することなく、提起した課題については、本県の全域の状況に対して責任を持って企画することを基本とします。

3. これまで開発した方法の活用

- ・ 対象看護職者を個別職場訪問により実態を悉皆的に把握する方法、その対象看護職者を小集団教育という形で集め、教員が把握した実態を共有するワークショップを行ったことが、極めて有効な方法であったこと
- ・ 看護職者自身が実践の現状を振り返ることを通して、看護サービス受領者への責任性を再認識することができれば、業務改善を主体的に考える機会となり、有効となることが確認されたこと
- ・ 対象となった看護職者にとって、他施設看護職者と情報や意見を交換することが極めて大切であり、横のつながりの乏しい看護職者同士のネットワークに発展する機会となれば、互いに学びあう関係性づくりに寄与でき、岐阜県域においては、これらの配慮も有効であったこと

なお、本事業には、大学と岐阜県内の看護実践現場の看護職者との連携や組織的連携を強化するという観点から、本事業の全体的な調整・進行管理や報告書の取りまとめについては、看護研究センターが関わっています。

原稿執筆要項

1. 執筆内容

看護実践研究指導事業報告書の原稿には下記の各項目を含める。

1) 今年度の事業報告

(1) 本文には、以下の内容を必ず含める。

- ・テーマ、担当教員
- ・目的（本事業の必要性）
- ・本事業で実施したこと（実施方法・内容・結果）
 - * 結果には、個別訪問研修、ワークショップ、報告会等、方法ごとの実績として、対象施設の種類・対象者の職種（・職位）別の数、修了証の交付数を含む
- ・参加看護職の意見
- ・教員の自己点検評価
- ・今後の課題、発展の方向性

(2) 本文以外に概要（報告書の概要部分に掲載）を記載する。

(1) に挙げた内容について、概ね2ページ以内で記入する。

* 備考：報告書原稿の締め切り後の研修会開催等、今年度の報告書に活動実績を掲載できない場合、その内容は次年度の報告書原稿に記載する。

2) 今年度に終了するテーマの総括報告（上記1.とは別に必要）

以下の内容を必ず含め、6枚（A4）以内で作成する。

- ・テーマ、担当教員
- ・目的（本事業の必要性）
- ・実施方法・内容・結果（参加看護職数・面接者数等、数量的な実績を含む）
- ・成果（実践現場・看護職に与えた影響、看護職の研修としての有用性、本学の研究・教育活動に与えた影響など）
- ・実施にあたり困難な（困難だった）点、工夫したことなど

2. 倫理的配慮

報告書は、冊子刊行後、本学が運営管理するホームページや本学の教育研究活動の成果物を電子的形態で蓄積・管理している岐阜県立看護大学リポジトリなどを通じてインターネット上に公開する。なお、岐阜県立看護大学リポジトリは、本学ホームページのトップページにあるアイコン



からアクセスできる。

3. 執筆様式について

・オフセット印刷とするため、原稿の書き方は下記のとおりとする。

- 1) 書式はA4縦置き横書きで、ワードプロセッサを使用する。
- 2) 図・表を含め1段組みで1ページとする。但し、内容によっては、表のみをまとめて、資料として本文末に添付する形式も可能であるが、資料は必要最小限にする。
- 3) 余白は上20mm、下20mm、右25mm、左25mmとし、「標準の文字数を使う」を指定する。
- 4) ポイント数は、本文（見出しを含む）10ポイントとする。
- 5) フォントは、見出し番号“ . ”および“ 1. ”: MSゴシック太字、見出し番号“ 1) ”: MSゴシック、“(1)”以下の見出し番号および見出し以外の本文: MS明朝とする。
- 6) 見出し番号は、 . 1. 1) とし、これ以下は(1)もしくは とする。なお、(1)の数字は半角とし、それ以外の数字、「 . 」, 片括弧 “) ” および両括弧 “ () ” はすべて全角とする。
- 7) 見出し番号以外の本文中にでてくる数字は、すべて半角とする。
- 8) 句読点は「、」「。」を使用する。
- 9) 文献の書き方は、本学紀要に準じる。
- 10) ページ番号は入れない。
- 11) アンダーライン、網掛けは使用不可とする（印刷したときの不鮮明さを防ぐため）。
- 12) 図・表は、印刷したときに鮮明に見えるかを配慮し、適切な表現に留意する。

2016年3月

発行日：平成 28 年 3 月 31 日
編集：看護研究センター
発行：公立大学法人岐阜県立看護大学
〒501-6295
岐阜県羽島市江吉良町 3047 - 1
TEL：058(397)2300(代表) FAX：058(397)2302
URL：<http://www.gifu-cn.ac.jp>
メールアドレス：nccenter@gifu-cn.ac.jp